

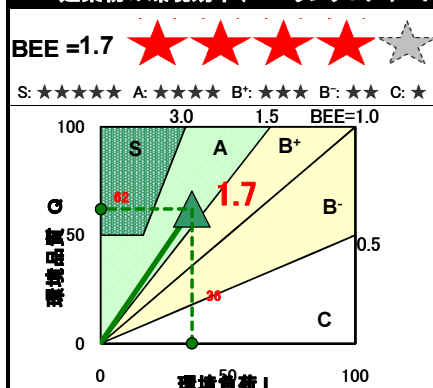
1-1 建物概要

建物名称	複合施設
建設地	京都市左京区下鴨南野々神町1番地
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第2種
気候区分	地域区分Ⅳ
建物用途	集合住宅
竣工年	2011年8月 予定
敷地面積	32,854 m ²
建築面積	634 m ²
延床面積	2,090 m ²

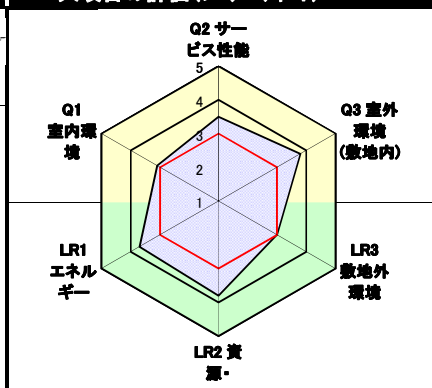
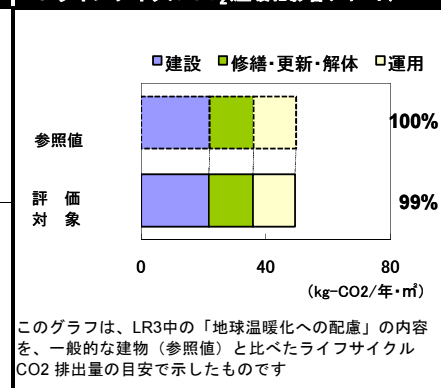
階数	地上4F
構造	RC造
平均居住人員	80 人
年間使用時間	8,760 時間/年
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2010年9月6日
作成者	岡田孝介
確認日	2010年9月8日
確認者	福田之一



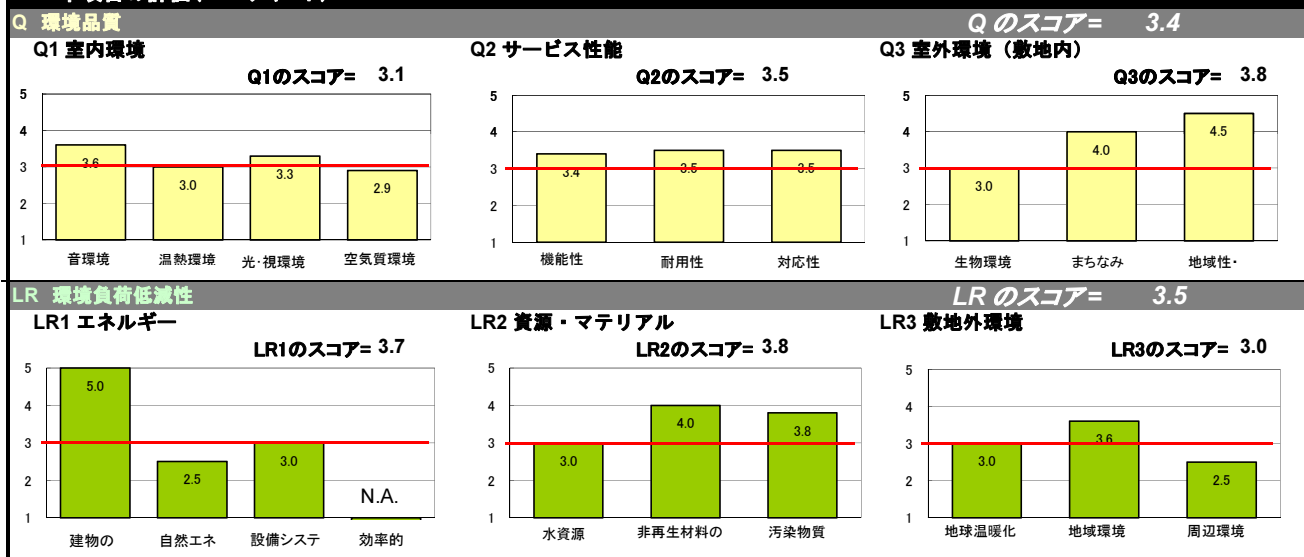
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合 本施設は北山キャンパス総合整備計画における段階的整備の第1フェーズの建物であり、大学本館内にある学生寮機能と一部の教育施設と同窓会館の機能を持つ複合施設である。環境配慮においては建物全体の自然光利用、断熱やペアガラスによる低負荷化、既存緑地の保全等に配慮して計画した。			その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価しにくい環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 アルミサッシ遮音性能T-2を採用。歩行音に考慮し、スラブ厚150+タイルカーペットを採用。各階のロビーとなる交流室は窓を大きく確保した。	Q2 サービス性能 ノートルダム女学院らしさの表出をコンセプトとし、機能に応じた内装計画、照明計画との一体的な計画、インテリアベースにより確認をおこないながら設計を進めた。交流室の天井高2.5m、住居部分の天井高2.5mを確保。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地南側のヒマヤヤ杉を残す建物配置とした。空調機器等は原則として屋上に配置し、景観上ルーバーによる目隠しをおこなった。	
LR1 エネルギー ポイント法によるPAL値 181、LED照明、省エネ制御、エコ給湯を採用	LR2 資源・マテリアル 高炉セメントを基礎部躯体に採用。3種類以上のエコマーク商品の採用(衛生器具、床材等)。内部間仕切の乾式化。ハロン消化剤の不採用。	LR3 敷地外環境 <「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項> 駐輪場の確保、サービス用車路・駐車場の確保、周囲に影響が少ない車動線。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される